

12月16日開催

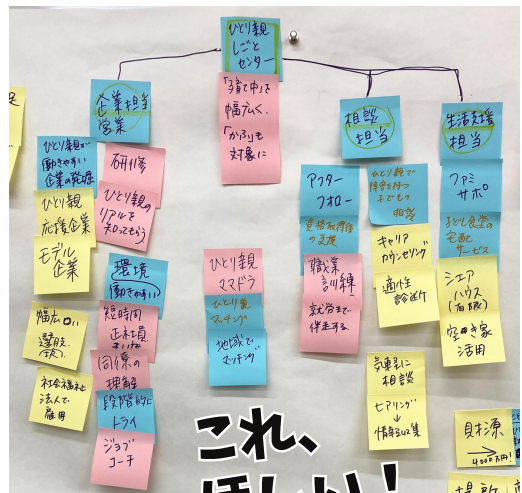
3 ひとり親支援事業案を検討

山口市でできそうな

前回までの情報を元に2グループに分かれ、ひとり親ペルソナ※として設定した「山口花子さん」が利用しやすい具体策を考えていきました。

グループ

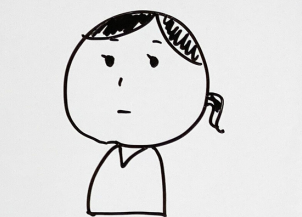
A 「ひとり親しごとセンター」



これ、ほしい！

グループAが考案したのは、主にひとり親の仕事の斡旋を行う拠点。子育て中の「働きたい」に幅広く対応できる仕組みになっており、生活支援がしっかりと組み込まれているところがポイントです。もちろん、ひとり親がスタッフとして活躍できる場所でもあります。

ひとり親だけではなく、病気の方、障害者、高齢者などいろんなハンデを持って働きたいマイノリティな方々に対応できる、いわば「ユニバーサルしごとセンター」の構想ができあがりました。



＜対象者(ペルソナ)＞
山口花子(33)
平川地区在住(県街)
長男:小1 ADHD
次男:年少 自閉症
スーパーレジ打ちで
週5勤務
実家は防府
離婚(知人DV)

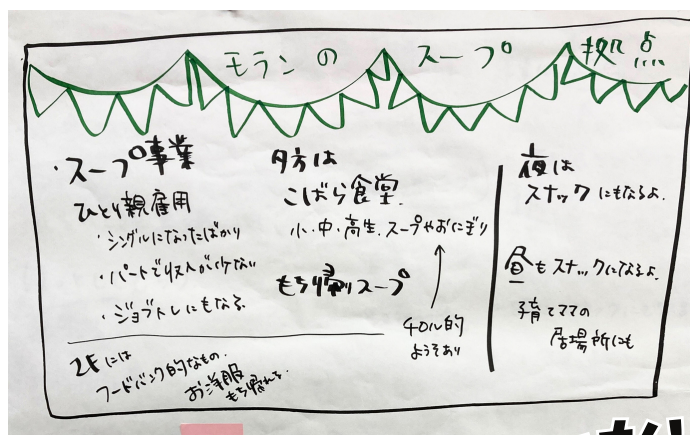
※ペルソナ
商品やサービスの典型的なユーザー像のこと。ターゲット層をより詳しく設定することで、メンバー間で詳細な人物像を共有し、ユーザーのニーズが明確になる。

グループ

B 「モランのスープ拠点」

昨年スタートした、ひとり親の働く場所「モランのスープ」に他県の取り組みをミックスして練り上げたのが、グループBの事業案。

スープでお腹を満たし、雇用を生み、ひとり親が駆け込める居場所にもなる。小腹を空かせた子どもたちがスープを求めて気軽に立ち寄れる。しかも、市民が購入するスープ代の一部が寄付となる。そんな拠点を商店街につくりたい…ひとり親への寄り添い支援が詰め込まれた居場所計画が完成しました。



あったらいいな！

円卓会議を終えて

3回に渡り行ってきた円卓会議を通じて、ひとり親の困りごとにどうにか寄り添いたいという支援者の思いと、さまざまな専門性が集まり、当事者の困りごとを解決に導く一歩への支援策が具体化されました。今後、このつながりと支援策を活かし課題解決に結びつくよう、引き続き伴走していけたらと思います。

ひとり親に限らず、誰もが住みやすいまちに一歩でも近づきますように。

(さぼらんで担当：藤岡)

企画・運営

山口市市民活動支援センターさぼらんで

山口市道場門前2-3-6 どうもんビル1F

TEL：083-901-1166 FAX：083-901-1165

MAIL：info@saporant.jp



ホームページ



円卓会議
テーマ

ひとり親家庭の支援に向けて

情報提供者



小西凡子さん
(.Style 代表)

「コロナ禍以降、ひとり親家庭はさらに厳しい状況に追い込まれているんです」と切実に語るのは、ひとり親支援団体.Style（ドットスタイル）代表の小西さん。近年の物価高騰や感染症対策などによって思うように働けず収入減を余儀なくされたり、子どもの送迎が必要な危険な世の中になってきたりといった急速な社会情勢の影響が直撃してしまうひとり親家庭は、今、相当な負担を強いられている状況下にあるのです。

ひとり親家庭のリアルな困りごと一例



仕事や体調不良のときに頼れる人がいない



進学費用を貯めることが厳しい



衣食住、金銭的な余裕がない



子育てとの両立が日々不安



多様な働き方を選べず
疲弊する

参考データ：さぼらんで「ひとり親家庭の困りごとアンケート」

ひとり親家庭の貧困率は44.5% (2022年 国民生活基礎調査の概況より)

ひとり親世帯の子どものうち約2人に1人が貧困と言われている昨今。上記のようなひとり親家庭の困りごとは山ほどあるのに、支援が十分足りていないのか、情報が行き届いていないのか、そもそも該当する支援がないのか、悲痛の声が止みません。解決への一歩に向け、関係者を集めて円卓会議を行うことに。

円卓会議って？

NPOや行政、企業、関係団体などが集まり、身分や席次による差別なく円卓を囲み、地域の課題について話し合う場のことをいいます。地域課題に気づいた人が情報提供者となり、その人を中心にさぼらんでが円卓会議での話し合いをコーディネートしていきます。課題解決に向けて円卓会議を重ね、必要と考えられる事業について行政に提案したり、独自でその事業を実施したりするなど、さまざまな解決方法につながっていく一歩を担います。



ひとり親家庭の 困りごと どう支援する？



行政、施設、関係機関等…第一線でひとり親の支援をしている方と当事者のみなさまにお声掛けし、課題に対して利用できる制度や情報、アイデアを共有しました。

当事者による課題共有 Style (ドットスタイル)

ドットスタイルはひとり親が孤立せず自立できるよう個別相談や居場所づくり生活支援などを行うひとり親当事者団体です



まず初めに、ドットスタイルの会員3名の方から悩みや困りごとをお話いただきました。

- 好きなものを満足いくまで食べさせてあげられない
- 私が入院になったとき子どもを頼める人がいない
- 学校行事や習い事などで保護者の力が必要なのにすべて一人でこなさなくてはいけない

また、ひとり親世帯で育ってきた方による子どもとしての体験談も。生の声が支援者に響きました。

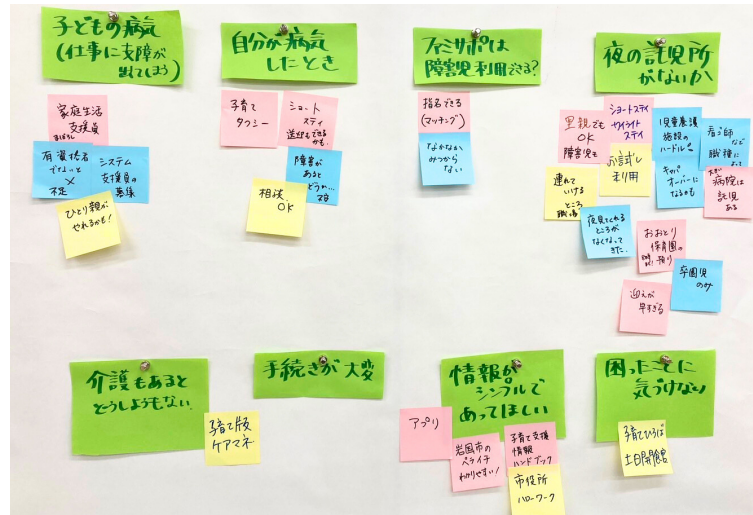
円卓会議出席者

ドットスタイル／山口県こども家庭課／山口市子育て保健課／山口市教育委員会（2回目）／母子父子寡婦センター（1,3回目）／母子寡婦連合会（1回目）／母子生活支援施設 沙羅の木（2回目）／こども明日花プロジェクト／山口市社会福祉協議会／パーソナル・サポートセンターやまぐち（1,2回目）／山口市協働推進課（1,3回目）／認定NPO法人山口せわやきネットワーク／山口市市民活動支援センターさぼらんて

10月22日開催
1

幼少期の子どもを持つひとり親支援を考える

第1回目は、会場での当事者の経験談と「ひとり親家庭の困りごとアンケート」の結果を元に、主に幼少期の子どもを持つひとり親の困りごとに対してどんな支援策があるかを話し合いました。



ひとり親の具体的な困りごとに対して出た既存の支援情報やその対策



病気などの時、気軽に使えるサービスは？

幼い子どもや保護者が病気の時や、仕事や家事等で手が回らない時、ひとり親は助け船が出しづらいという声に、さまざまな機関からそれを補完するサービスの情報が挙げられました。しかし、当事者からは「情報が届いていない」「子どもに合うかわからない」「そこにお金をかけられない」との本音が。お試しサービスや補助金などがあると少し使いやすくなるのかも。子育て版のケアマネージャー制度があってもよいのでは？というアイデアも出てきました。



独身者やシニア層が支援者になれるかも!?

比較的時間が取りやすい独身者やシニアの人たちが、ひとり親の困りごとを知ってつながれると良いのでは？との発案が。日ごろ子どもと関わりのない人は、善意の伝え方や接し方がわかりにくいと、子ども食堂などでひとり親と関わる機会を持つことで、支援者としての一歩につながるかもしれません。



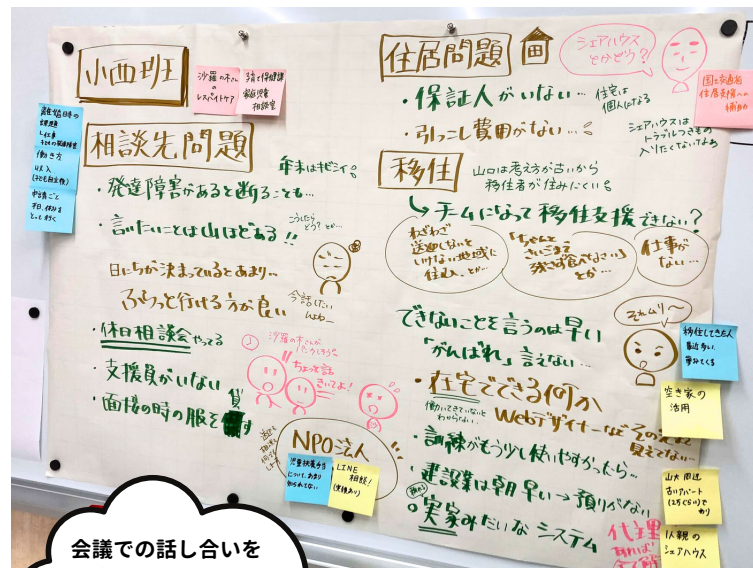
山口市で使えるサービス

- 家庭生活支援員
- ショートステイ
- トワイライトステイ
- ファミリー・サポート・センター
- 子育てタクシー
- 職場や出身保育園等での預かりサービス
- 家事代行サービス
- シルバー人材センター
- 有償在宅福祉サービスの掃除、買い物支援 等

11月25日開催
2

学齢期の子どもを持つひとり親支援を考える

第2回目は、学齢期の子どもを持つひとり親当事者のリアルな声をピックアップし、2グループに分かれてどんな支援があるか、それが届いていない、使われていないのはなぜかなどを話し合っていました。



会議での話し合いを有意義なものにするために集めたご意見を、一部抜粋してご紹介します



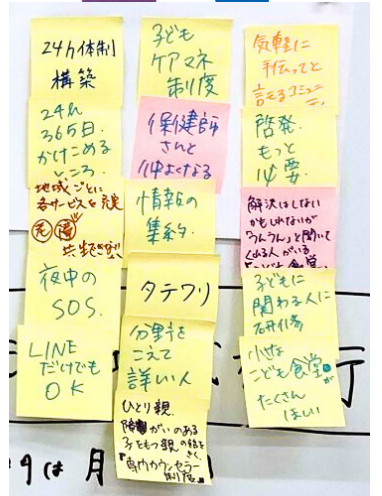
簡単にはいかない…ひとり親の住居問題

子どもが大きくなると出てくるのが住居問題。空き家でシェアハウス利用ができれば、ひとり親にも地域にも一石二鳥なのでは？という意見が出ましたが、費用面や共同生活のトラブル等への懸念があり、残念ながら実現は難しそう。さらに、移住してくるひとり親は慣れない土地で孤立しやすいと、その家庭に合った専門家チームが必要との声も。



相談先があるのに使いにくいのはなぜ!?

2グループともに取り上げたのは相談先の問題。相談先はたくさんあるのに、知らない、子連れNG、時間帯が合わないなど、さまざまな使いにくさが挙げられました。話し合いの結果「実家のような代理人が居れば解決するのでは」という意見や、小さな子ども食堂がたくさんあると「駆け込み寺」として使いやすく相談しやすいのでは？というアイデアにまとまりました。



話し合いで見えてきた、話を聴いてくれる人やコミュニティの必要性

ひとり親家庭の困りごとアンケート

回答協力：ひとり親当事者 56名（20～50代、県内在住）
回答期間：2024年10月19日～11月3日

Q.お金以外で困っていることは？

- 生活のこと（25%）
- 仕事のこと（16.1%）
- 食のこと（12.5%）

Q.困りごとに対してどんな支援があるとうれしい？

- 女1人だと何かと舐められてしまうので、そういう時に、付き添ってくれたり、立ち合ってくれる人がいると大変ありがたいです。
- 近くで相談したり、子どもが遊べる場。遠いと親の送迎が必要なので。
- 代理をお願いできる人がいるとありがたいです。（できれば息子と顔馴染みになった上で。）

Q.今の支援がどうなったらもっと使いやすい？

- ひとり親同士の繋がりや交流を深める。助けられて終わりの支援が多いと感じる。相互扶助の精神を生かして共に逞しくいきたい。
- 離婚するしないの時に、修学支援でどちらの場合でも概算を提示して、今後の生活プランを具体的に一緒に考えてくれる親切な窓口があれば嬉しい。
- 学童保育と習い事両方できるような施設があれば、あちらこちらへ送迎しなくて済む。

アンケート全回答 (PDF)

